

## 麻生氏「公明代表らがんだった」

自民党の麻生太郎副総裁が福岡市内での講演で、岸田政権が昨年末に閣議決定した反撃能力（敵基地攻撃能力）保有を含む安全保障関連3文書への対応を巡り、公明党の山口那津男代表ら幹部を名指しで「一番動かなかった、がんだった」と批判したことが分かった。

麻生氏は26日、自身の発言について「山口氏らが問題だったという意図だ」と共同通信の取材に答えた。公明への批判は撤回しない意向とみられる。

講演は24日に行った。麻生氏は

### 安保3文書巡る対応批判

「北朝鮮からほとんどミサイルが飛んでくる。だが公明党は専守防衛に反するという理由で反対。現実をよく見てみる」と指摘。山口氏、石井啓一幹事長、北側一雄副代表や公明の支持母体である創価学会が「がんだった」とした上で「今は時代が違う。ウクライナみたいに日本が戦場になると言い続け、納得する」という形になった」と語った。

山口氏は26日の記者会見で、麻生氏の講演を巡り「どういう意図で話したか分からず、評価は控えたい」と論評を避けた。